

## 研修報告書 No.9

研修先： 医療法人聖真会 渭南病院

私は初期研修医 2 年目終盤の時期に、東京から最も遠い市の一つといわれる高知県土佐清水市に地域医療研修として 1 ヶ月研修させていただきました。土佐清水市は高知県西端に位置し、私の住んでいる横浜から飛行機、電車、車を利用して一日かかるほど遠方な場所でした。私の実家も田舎ではありますが、実家よりも遠く、高齢化が進んでいる地域に行くことは初めてでした。

研修内容としては、午前中は一般外来や救急外来、午後からは往診や病棟管理、内視鏡などの処置を主にさせていただきました。機会があれば手術もあるとのことだったのですが、私が研修した期間に手術はありませんでした。外来では問診、診察から検査、今後の方針まで自分で決定し進めていく形であり、普段大学病院ではできないような対応まで求められました。必要な検査を自分で考え、帰宅させてもいいのか、帰宅させて次の外来はいつ来てもらうのか、また入院は必要なのか、を一人で考えてから最終決定を仰がないといけないような状況であったため刺激的な研修となりました。また専門医の数も少ないため、普段大学病院では診る機会の少ない創傷等の外科疾患も対応しなければならない環境であり、私にとっては数少ない貴重な経験となりました。大学病院と比較すると院内で可能な検査や処方可能な内服薬、点滴薬も限られるため、最初は薬剤を選択することが困難でした。またエビデンスだけに基づいた治療を優先するのではなく、ご本人、家族の意向など患者背景を考慮し診療を進めることも高齢者の多い地域にとっては重要であると感じました。高齢者が多いため食事摂取不良の患者さんも多く、病棟ではそのような患者さんに対して中心静脈カテーテル (CV) を入れる機会が多く、貴重な経験となりました。

当然のことながら患者さんは一般的に高齢者の割合が多く、90 歳代も外来で診なければならないような状況でした。物理的になかなか病院に来ることが困難であったり、重症患者さんで転院搬送となった際も救急車で 1 時間かかったりするなど、都心部では考えられないような状況が多々ありました。そのような状況でも病院に来ることができない患者さんに対しては往診、訪問看護を利用したり、他職種と協力して老人ホーム等の施設とも連携し患者さんを把握したり、重症患者をすぐに転院できるよう大病院の医師とも連絡をとったりと、渭南病院だけでなく他施設とも協力し、病院内でも看護師、理学療法士等の他職種と連携しチーム医療を担っているところが垣間見えました。

1 ヶ月の地域研修で外来から病棟、往診まで経験させていただいて、自宅、施設での看取りを第一に考えており、自宅に帰るためにはまず患者さんの栄養状態と ADL が重要であると感じました。渭南病院では栄養状態が不良と判断した際は早期に CV での経静脈栄養を開始し徐々に経口での食事を開始するようにマネジメントしていました。また ADL 不良の患

者さんに対しては早期に理学療法士、作業療法士の介入を開始しリハビリを進めていき退院への支援を行っていました。退院までの流れを見ていく中で、医師だけでなく看護師、作業療法士、理学療法士などの他職種とコミュニケーションを取ることで、医師だけではわからない新たな視点を発見することもあり、医療スタッフが少なく、高齢者の多い地域では医療負担も分散することができ、再度チーム医療の重要性について認識しました。

今回 1 ヶ月研修させていただいて、自分も田舎出身なので将来地元に戻るとなった際に医療現場や実際の診療、退院までの流れを間近でみることができ、貴重な経験になりました。

最後にお世話になった渭南病院の先生方、外来スタッフ、病棟スタッフ、その他医療関係者の方々、また高知での地域医療の研修を支援してくださった高知医療機構の皆様に大変感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。